

【担当教員名】 渡辺信也	対象学年	1	対象学科	理学・作業・言語・健康・社会
	開講時期	後期	必修・選択	選択
	単位数	2	時間数	30

【概要】  
 今日、科学技術の高度化に伴い、「生命」や「環境」が倫理学の対象となる一方、やはり科学技術の進展がグローバル化の進行を促進した結果、異なった価値観を持つ人間同士の「共生」という新たな倫理的課題が生まれた。そのため旧来の倫理概念は全面的な再検討や拡張を迫られる状況に至り、「生命」「自由」「人権」等の意味が根本から問い直されている。本講義では、今日の倫理概念の基底を形成した西洋近代思想における倫理概念の意義と限界を検証すると共に、東洋思想の再評価をも踏まえつつ、現代の倫理問題の諸相を、特に環境倫理を中心に概観し、生命を含む広義の環境を守り、他者との共生を可能とするべく、人間存在の配置に対する新たな理解に基づいて、21世紀の倫理学を構築していくための原則を見出そうとするものである。

【学習目標】  
 1. 現代の倫理的課題の諸相に関する知識を得る。  
 2. 従来の倫理概念の意義と限界を理解・評価できる。  
 3. 今世紀に求められる倫理的原則を理解し、この実践に主体的に取り組む姿勢を持つ。

回数	授業計画又は学習の主題	SBO	
		番号	学習方法・学習課題又は備考・担当教員
1	現代倫理学入門		講義
2	今「倫理学」とは何を謂うのか、環境倫理学や生命倫理学等、今日の倫理学の抱える問題を概観する。		講義
3	自由主義の問題		講義
4	世代間倫理の問題		講義
5	近代社会の基本理念であった自由主義の意義と限界を検証する。		講義
6	現代の我々に環境を破壊する権利があるのか、次世代の権利と彼らに対する責任を考える。		講義 (ビデオ視聴を含む)
7	西洋近代科学の裏面を成してした、生命や自然との共生を説く思想の意義を東洋思想との関連をも含めて再考する。		講義
8	生命倫理の問題		講義
9	爆発的な進歩を遂げているバイオテクノロジーの孕む危険性と、これを回避する倫理的原則を探る。		講義
10	環境世界の哲学		講義
11	20世紀の環境哲学の先駆的な役割を果たした諸思想の検討を通して、人間が環境世界と関ることの意味、及び科学技術に対処する方策を考える。		講義
12	資源・人口・環境の問題		講義
13	複雑に絡み合うこれらの問題をいかに解きほぐし、健全な解決策を提示する。		講義
14	企業倫理の問題		講義
15	利潤追求を旨とする企業にいかなる倫理を求めることが可能であるのかを検討する。		講義
16	配分における正義の問題		講義
17	有限な資源や医療福祉サービスをいかに公正に配分すべきか、その倫理的原則を考察する。		講義
18	多文化共生の問題		講義
19	政治・経済・文化背景等多くの相違を承認かつ尊重しつつ、平和な共存を可能とする倫理的原則とは何かを検討する。		講義
20	21世紀の倫理へ向けて		講義
21	生命・環境・多文化共生等の倫理的諸問題を集約する倫理的原理を、現代の思想状況の批判的反省を通して再考する。		講義

【使用図書】	＜書名＞	＜著者名＞	＜発行所＞	＜発行年・価格・その他＞
教科書	共生のリテラシー -環境の哲学と倫理-	加藤尚武 (編)	東北大学出版会	2001年 1500円 (税別)
参考書	講義中に指示する。			
その他の資料	プリントを配布する。			

【評価方法】 出席・授業態度・レポート・期末試験	【履修上の留意点】 高校で倫理を履修している必要はない。 テキストには難解な叙述や問題点が含まれ、随時批判的検討を加えつつ解説するのでできるだけ欠席しないように。疑問点はすすんで質問すること。
-----------------------------	--